

コロナ後遺症の通院、半数強が 180 日以上 - 岡山大病院などの研究グループ

2025. 8. 4CBnews



岡山大病院などの研究グループは、同病院のコロナ後遺症外来の患者について、症状の長期化に関わる臨床的な特徴の研究を行い、オミクロン株の感染者 52.2%が、初診から 180 日以上の通院を必要としたことを明らかにした。また長期通院の患者は、3 つ以上の症状がある女性が多いことも分かったという。【斯波祐介】

患者 774 人（男性 359 人、女性 415 人）のうち、52.2%に当たる 404 人が長期通院（180 日以上）していた。長期通院の患者の割合は女性が 59.4%、男性が 40.6%、一方、短期通院（180 日未満）の割合は男性 52.7%、女性 47.3%と対照的な結果だった。

3 つ以上の症状のある患者の割合は長期通院の男性で 48.4%、女性で 54.7%だった。長期通院の女性は短期通院と比較して倦怠感や睡眠障害、記憶障害、しびれの症状が多い。女性の倦怠感は長期通院では約 80%が訴えたのに対し、短期通院は約 50%にとどまる。

同病院総合内科・総合診療科の櫻田泰江医員らの研究グループでは、コロナ後遺症について正しい理解を深め、心のケアや医療体制、就労・就学支援などの体制充実が今後重要になると指摘している。

オミクロン株の後遺症 女性患者がより多くの症状・長期通院の傾向 岡山大学が分析
7/30(水)瀬戸内海放送

岡山大学病院総合内科・総合診療科の櫻田泰江医員らの研究グループは、コロナ・アフターケア外来を受診した患者の臨床的な特徴について分析しました。

分析の結果、半年以上の長期通院患者は男性より女性の割合が多く、3 つ以上の症状を有する患者の割合も女性の方が多かったことが分かりました。

研究成果は 11 日、国際学術雑誌「Journal of Clinical Medicine」に掲載されました。研究グループは、オミクロン株に感染して受診した 2022 年 2 月から 2024 年 10 月までの患者 774 人について分析しました。

分析の結果、180 人以上の長期通院をした女性患者の割合は 59.6%で、男性（40.6%）より多いことが分かりました。

長期通院をした女性患者は、短期の患者より倦怠感、不眠、記憶障害、しびれの症状が多く見られ、長期通院をした男性患者は短期の患者より倦怠感、頭痛の症状が多く見られました。

また長期通院患者のうち男性の 48.4%、女性の 54.7%が 3 つ以上の症状を訴えていて、女性の方が多くの症状を抱えていることが分かりました。

櫻田医員は「女性が辛い症状で悩んでいる割合が多いことが明らかになった。後遺症への理解が広がり、病態解明や治療法が発展するよう研究を続けたい」と話しています